加島五千石総鎮守
米之宮浅間神社 社報
令和5年
秋号
10月1日発行

実りの秋

太陽の光を受けて黄金色に輝く一面の田。日本の秋を象徴する光景といえるでしょう。

実った稲は、新穀として神前にお供えし、恵みに感謝するお祭りを行います。

伊勢の神宮では、十月十七日を中心に、天照大御神に新穀をお供えする神嘗祭（かんなめさい）が行われます。神嘗祭は、年間千五百回にも及ぶ神宮の恒例のお祭りの中で、最も重要なお祭りとされています。十七日朝、天皇陛下には、伊勢の神宮を遙かに拝され、天照大御神をお祀（まつ）りする宮中の御殿―賢所（かしこどころ）―でも神嘗祭が行われます。

さらに、十一月二十三日の勤労感謝の日には、新穀を神々にお供えし、恵みに感謝する新嘗祭（にいなめさい）が宮中と全国の神社で行われます。天皇陛下には、皇祖をはじめ神々に、みずからお育てになった新穀をお供えされ、御自身も召し上がります。そして、五穀豊穣を感謝し、国家・国民の安寧を祈念されるのです。この日、伊勢の神宮を始め全国の神社でも、新嘗祭が行われます。

皆様も、このような神祭りの伝統に思いをいたし、おいしい新米や新酒を戴くことで、実りの秋への実感がさらに深まるのではないでしょうか。

御神札などの数え方

神社に関する事物の数え方は、神社や神さまを敬って用いられるようになった独特の数え方があります。御神札（おふだ）や御守などは一体、二体。神輿や石灯籠などは一基、二基。神社は一社、二社。御祭神については一柱（はしら）、二柱と数えます。柱という言葉には古来、神霊の宿る樹木を御神木として神聖視してきたことや、木や柱を神座としてきたことなどが理由として考えられます。

数え年

神社では、厄年の年齢などを数え年で表わします。現代では、誕生日に一歳、年齢を加える満年齢を用いていますが、わが国には古来、誕生日に関係なく正月に一歳、年齢を加える数え年の風習がありました。これは、正月が、年神さまを迎えてお祝いする大切な時季ですので、その時に合せて一歳ずつ年をとる数え年がふさわしいと考えられてきたからです。古くは、日本には零（〇）の概念がなく、生まれた日から一歳で、新年を迎えると二歳になりました。神社では、日本の伝統的な考え方を継承していくことから、数え年を尊重しているのです。

神社の豆知識

神饌

神饌（しんせん）とは、お祭りなどで神さまに献上するお食事のことで、御饌（みけ）ともいいます。神さまにお食事を供えしておもてなしをし、お下がりを参列した人たちで戴く行為―神人共食（しんじんきょうしょく）―が、日本の祭りの特徴であるともいわれています。お供えする品目は、主食である米を始め、酒、餅、海魚、川魚、野鳥、水鳥、海菜、野菜、菓子、塩、水が基本で、お祭りによって種類や数量に増減があります。また、神社によっては、地域の特産物や、伝統に根ざした特殊な神饌が供えられるなど、神饌には私たちが長い歴史の中で育んできた食文化が反映されています。神饌には、生のまま供えられる生饌（せいせん）と、調理した熟饌（じゅくせん）があります。家庭での神棚へのお供えも、これに準じて、米、塩、水を基本として、酒や餅、季節の物などをお供えします。

神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。

いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。

ご祈願についてのお問合せは神社まで

連絡先　米之宮浅間神社　社務所
〒四一六-〇九〇六
静岡県富士市本市場五八二
☎ 〇五四五（六一）〇八一七
FAX 〇五四五（六一）〇八二九

神社や神道について詳しくはこちらのQRからご覧ください。